



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
           益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
           (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
                   Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「海辺の教会」

先日、気仙沼を再訪されたフィリップス章子姉から、訪問先の教会発行の『海辺の教会』という書をいただいた。気仙沼聖書バプテスト教会、千葉仁胤（ひとつぐ）牧師の東日本大震災記録集である。震災の痛みが改めて身にしみた。

今年の五月から、依頼を受け訪問をしている主婦Hさんは心が深く傷ついている。彼女は、目の前で自宅が流されてゆくのを目撃している。足の不自由な夫がその家にいたかどうかは分からない。一ヶ月後、遺体安置所であろうやく夫と対面することが出来た。訪問の際の彼女の対応は明るく、友達ともでかけるので意外であった。しかし、眠れないので薬をもらっているという。昼間は何とか過ごしながらも、夜には淋しさと夫を守れなかったことへの自責の念が残っているのだ。彼女の心の戦いがどれ程のものであるか話を聞いた。一つは、震災後三ヶ月ほどは夫の写真を見ることが出来なかったこと。さらに今まで庭で花を作ることが趣味であったが、震災後八ヶ月経っても、花を見ることが出来なくなっているという。今はようやく落ち着きを取り戻しつつあるようだ。

もう一人、七〇歳代後半の主婦は、将来に対する不安がとて大きいように感じられた。彼女の口からは、この先のことを考えれば、あのとき津波に流されて死んでしまった方が良かったと繰り返すのだ。それが冗談のようでもあり、心の底からのものである。確かに、高齢で夫も体が不自由、この先、住む家や生活の保障もないことを考えれば、絶望だけなのかもしれない。被災者の現実を取り巻く環境は、限りなく厳しいものであることを知らされる。

フィリップ・ヤンシーは、ゴードン・マクドナルドの言葉を紹介し、「家を建てたり、飢えている人に食べ物を与えたり、病人を癒すのに、クリスチャンである必要はない。しかし、この世に出来ないことが一つだけある。それは恵みを差し出すことだ」と『誰も知らなかった恵み』より。それゆえに、教会という支援者がこの「恵み」を与えることができるのかを求められていると思う。

へブル書に「獄につながれている人たちを、自分も一緒につながれている心持で思いやりなさい」(十二・3)とある。実はこの前者のHさんは章子姉の叔母様にあたる。彼女の痛みは他人事ではなく、私たちの足元で起こったことなのだ。だから、一緒に痛むべきなのだ。しかも、罹災者に届くのは神の恵みしかない。その恵みとは永遠の命であり、人類に与えられた唯一にして最上・最高の祝福である。これはクリスチャンだけが手渡すことのできる特権である。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

